

しみずの教育 ちよっといい話

【平成28年11月号】

清水小学校

校長 山下 勇

子どもたちへの支援・応援 ありがとうございます

今年も、本校の卒業生の高橋高志様から、児童図書をいただきました。「読書を通じて、本好きで心豊かな子どもに育ててほしい」との願いが込められています。子どもたちには高橋様の思いを受け止め、たくさんの本に親しみ、読書の楽しさや素晴らしさを実感してほしいと思います。朝読、家読、「読書の日」、「読書週間」などを通して、たくさんの本と出会い、心を耕す機会をつくっていきたいと思います。



たくさん読みます！

新聞記事で台風の被害を受けた清水町のことを知り、子どもたちを元気づけたいとの思いから、赤平市の小林昭三様が、「子どもたちに食べさせてください」と『じゃがいも』を送っていただきました。早速、学校給食センターで給食メニューの「肉じゃが」の材料として調理していただき、清水町の子どもたちが美味しくいただきました。



『肉じゃが』で美味しくいただきました。

改めて、多くの方々に支えられていることや温かな思いで見守られていることを実感するとともに、多くの皆様に感謝したいと思います。

『十勝教育を考えるつどい』・『どさんこ☆子ども会議』へ参加して

11月5日（土）に足寄町民センターで、「十勝教育を考えるつどい」・「どさんこ☆子ども会議」が開催され、本校の児童代表として6年生の大東 結さんが参加しました。「どさんこ☆子ども会議」では、本校の児童会で取り組んでいる活動「全校であそぶデー集会」や「あいさつ運動」、「1年生を迎える会」を通して、全校児童が仲良くなるとともに、つながりを深め、いじめが起きない楽しい学校づくりをめざして取り組んでいることを発表し、他町村の小・中・高校生と情報や意見の交流をしました。



情報や意見の交流をしました。

今回の経験を児童会活動に生かして、一層全校児童が仲良く、楽しくなるような活動を進めていってくれることを期待したいと思います。

御影小学校

御影小学校開校 100 周年記念学習発表会

11月5日（土）に行われた開校 100 周年記念学習発表会。子どもたちは、「100 周年の石の子よ 希望をむねに感動をとどけよう！」というテーマのもと各学年の発表練習や実行委員会の活動を取り組んできました。当日の発表もテーマを実現した素晴らしいものとなりました。特別時間割3週間という中で身に付けた力をこれからの学習に活かしていけるよう願っています。また、今年度から、観客席に優先席を設けましたが、PTA 役員の協力もあり、とてもスムーズに行うことができ、保護者の皆様からとても好評でした。



1年生 器楽・歌 はらべこあおむし



4年生 劇 御影百年物語



5年生器楽・歌オリンピックヒストリー



2年生 劇 ピノキオ物語



4年生 器楽・歌ずっと友だち



全校合唱 怪獣物語



6年生 劇 はだしのゲン



児童会長あいさつ

(教頭 川崎 広輝)

清水中学校

十勝教育を考えるつどい

11月5日（土）、足寄町民センターで開催された十勝教育を考えるつどいに、本校生徒会書記局の3人が参加しました。大人たちが我が町の教育自慢交流をしている間に、子どもたちは別室で「どさんこ☆子ども会議」。管内の小学生、中学生が各校の取組を発表し、足寄・本別の高校生と一緒にグループでいじめ根絶に向けたメッセージづくりをしました。



大郷中学校からメッセージ

宮城県大郷町にある大郷中学校から、台風被害に対する応援メッセージが届きました。かつて大郷町の大松沢地区というところから、清水町の松沢地区へ入植された方たちがおり、そのご縁で町どうしの交流が続いています。



東日本大震災の際には、清水町の皆さんからも支援をいただいたとのことでした。

また平成24年には、本校の現在の1・2年生何名かが、小学生時代に大郷町を訪れ、25年には大郷町の児童が本町を訪れるという交流もおこなわれていたとのことです。

手形で描いた掲示物、千羽鶴、ビデオメッセージなどを贈っていただきました。ありがとうございます。



（教頭 伊澤理紀）

御影中学校

後期の目標が掲げられました

中学校は、生徒の生活の区切りを前後期制としています。9月に期末テストを実施し、10月上旬に前期の成績が個別に渡されました。また、生徒会役員選挙を経て、2年生中心の生徒会役員体制に切り替わりました。新しい学級役員も決まって生徒総会も終わり、校内の雰囲気も、すっかり代替わりしています。

10月中旬、教室には、生徒一人一人の後期個人目標が掲げられ、現在の学年の残り半年

をどのように過ごすのか、決意が示されています。どのクラスも、あっという間に掲示物が前期と張り替えられていて感心しました。

1年生は、家庭学習の習慣を身に付けることと、あいさつを頑張りたいという目標が多く見られました。「毎日1時間30分を目標にその日の勉強の復習をたくさんする」「一日最低一時間は勉強する」「毎日家で予習・復習をし、授業についていけるようにする」など、とても意欲的です。また、「あいさつを毎日しっかりと言う」「先生や友達、先輩にも進んであいさつをする」「挨拶をしっかりと大きな声でする」など、挨拶を中心に生活



1年生はより中学生らしい目標に

態度をしっかりと確立しようとしています。



2年生は部活動や生活を重点に

2年生は、テストで〇〇点を狙う、部活を頑張る、という目標が多く見られます。「定期テストで良い点を取る!!」「定期テストで350点を取る」などのほか「通知表の5をあと2つ増やす」というものもありました。また、ホッケー部は「アイスホッケーで二連覇!!」「全道・全国優勝」「全道・全国を取る」という意気込みが記されています。他には、「漢検、英検合格目指す!」「漢検3級合格!」など資格取得を

目指す生徒もいて、頼もしく思います。2年生らしく、短い言葉で力強く書かれているものが多く見られました。

3年生は残り半年。それぞれの思いが込められたものが多いようです。受験を意識して「志望校合格」「勉強毎日3時間以上」「限界を超えてチャレンジ」などの学習目標、「規則正しい生活」「生活のリズムをととのえる」「早寝早起きをする」など、生活目標が掲げられています。そのほか、「卒業まで1日1日大事に過ごす」「感動的な卒業式にする」など、卒業を意識した目標もあり、3年生らしさを感じ、とても心に浸みます。



3年生は自分の将来を見据えて

全国学力・学習状況調査の「生徒質問紙」の結果を見ると、「自分にはよい所がある」「人の役に立つ人間になりたい」「将来の夢や希望をもっている」という質問項目で、「そう思う」と答えている生徒が全国平均を大きく上回り、とても多くなっています。自己肯定感の高さが表れているのだと思います。後期の目標にもそれがにじみ出ていると感じます。掲げた目標が一人一人の努力によって実を結び、各学年を締めくくるときには達成感で満たされていることを願っています。そのために、教職員も全力で子どもたちを支えていきたいと思えます。

(教頭 宗形 真恵)

地域の伝統 ～ 総合学科全国大会に参加して

例年になく早い雪。あっという間に真っ白な世界が広がり、夏から秋にかけての台風被害といい、十勝らしくない一年になりそうです。道路や治水、水道等、ライフラインの工事が続いており、雪が復旧工事の妨げにならなければいいなと思っています。

関係の皆さま、寒さの厳しい中、ご苦労さまです。

10月27（木）、28日（金）の両日、島根県松江市で行われた全国高等学校総合学科教育研究大会に本校の先生方と参加してきました。一日目が公開授業、文部科学省の講話、記念講演、島根県の総合学科4校それぞれによる全体発表。二日目の午前中に分科会で全国の総合学科との意見交換と盛りだくさんな内容です。

総合学科の成果と課題をテーマとした第5分科会では、北海道の美唄尚栄の実践と京都の洛陽総合の取組が発表されました。美唄尚栄は市内の3つの高校が統合され、平成23年に総合学科となってからの学校作り、洛陽総合は大正13年（1924年）に開校し、私立高校として定員の6割程度しか入学者が確保できない状況から、平成11年に総合学科を導入、基礎学力作り、適性を考えるキャリア教育、個に応じた生徒指導に取り組み、280名の80%を専願入試で確保し、一般受験と合わせて定員をはるかに超える現状の発表で、大変に興味深い内容でした。

総合学科の魅力と現在の清水高校教育の方向を再確認する研究会になりました。

オープニングアトラクションで総合学科の邇摩（にま）高校の石見神楽同好会と浜田商業高校郷土芸能部14人による石見神楽（いわみかぐら）、「大蛇（おろち）」が披露されました。須佐之男命（すさのおのみこと）の八岐大蛇（やまたのおろち）退治を題材にした神楽で、大蛇を演ずる高校生の、中に人が入っていることを感じさせない舞い、笛や太鼓、「謡い」に圧倒されました。「古事記」「日本書紀」を原拠とした郷土の伝統芸能、それを守ろうとする高校生、意識の中に神話の世界があるのも本州の伝統のすごさでしょうか。



【石見神楽】

公開授業を見学した三刀屋高校は松江から20キロ以上離れ、JRの駅からも2～3キロ、全校生徒400人程と本校と同じような環境にあります。男女各40名定員の寄宿舎もあり、山陰の山の中なので、冬の雪の季節の短期入寮も可能になっています。大正13年（1924年）創立、平成16年度から総合学科として文系（総合人間、人文情報、人文科学）、理系（理数情報、理数科学）の5系列で展開していますが、就職も10%以上と各種の進路に対応しています。

公開授業は3年次が各種の授業、絵画が2名、数学も数学Ⅲ、数学総合Ⅱ、基礎数学と全

く異なるレベルで展開され、一昨年は東大現役合格者も出たそうです。1年次は地域産業研究、2年次は課題研究のクラスごとの発表会でした。校舎が昭和40年代の建築で大事に使っていることに驚き、本州の高校特有の雨天通行禁止の屋根のない廊下もありました。

記念講演の中村ブレイス代表取締役中村俊郎氏は、昭和49年にアメリカからUターンして故郷の島根県大森町に義肢装具製作の会社を起業した方です。今は世界遺産石見銀山で有名になったとは言え、人口が400人ほどの町、そこに世界を顧客にする企業があります。パラリンピック水泳代表の一ノ瀬メイさんの義手を作った話のビデオが紹介されていましたが、自分の技術への誇り、技術者の育成、さらには故郷の地方創生に関わり続ける姿勢に深い感銘を受けました。

28日（金）に北海道に戻り、29日（土）は総合学科室蘭東翔高校の十周年記念式典に出席。北海道の高校生は地域の伝統を守り、いかに継承、発展させていくでしょうか。教育の大きな役割です。

12月3日（土）、10時から文化センターで「清水高校の総合学科を語る集い」を開催します。大企業の新入社員研修プログラムから高校教育の在り方まで、幅広く研究されている東京大学准教授の中原淳先生をお招きし、地域の教育を考える内容で予定していますので、子どもさんの教育を考える良い機会になれば、と思っています。小中学生のお父さんお母さんも是非、参加して下さい。



【島根県立三刀屋高校
同窓会館「蒼雲館」】



【国宝 松江城天守閣】

清水幼稚園

園長 福原幸江

デイサービス訪問・・・肩たたきをトントントン！！

今年も、10月7日（金）に、さくら組13名で清水町デイサービスセンターを訪問しました。初めは緊張してなかなか笑顔も出ない様子でしたが、歌3曲（どんぐりころころ、とんぼのめがね、さんぽ）を歌った頃には笑顔が自然に出るようになりました。“手あそび”（の

ぼるよコアラ)では、さくらさんが見本を見せた後で、お年寄りと一緒に遊びました。ちょっと得意げに一生懸命披露することが出来ました。また、お年寄りに音楽に合わせて肩たたきをすると、「とても上手だね。気持ちよかったよ」と褒めてくれました。最後に、音楽に合わせたボールまわしをして、音が止まったところで、「好きな食べ物」「好きな歌」「好きなテレビ番組」などを発表しました。緊張の中にも精いっぱい笑顔と、練習の成果をしっかりと披露できたひと時となりました。



さつまいもを焼いたよ！・かぼちゃも くり抜きました



10月11日(火)に清水高校に行き、春に植えたさつまいもの収穫をしました。そのお芋をゆっくり乾かし熟成させ、10月25日(火)に「やきいもの会」で高校生のお兄さんたちが焼き芋にしてくれました。待っている間に、年長のばら組はお兄さんたちと一緒に、ハロウィン用のランタンづくりをしました。大きなカボチャに苦戦していましたが、素敵なジャック・オー・ランタンが完成しました。さくら組・たんぽぽ組もお兄さんたちに手伝ってもらいながら、夏の外遊び道具と冬用の道具の入れ替えをしました。力持ちのお兄さんたちのお陰であっという間に終わることが出来ました。感謝しています。

焼きあがった甘いお芋と一緒に食べた味は格別でした。



第一保育所

はなびだぁ～ きれ～い

「はなびだぁ～」 「せ～の、それ～」 「おもしろ～い」 などとつぶやいている子どもたち！

「花火」というイメージを共有し、友だちと競うように何度ももみじの葉を拾い集め、空高く舞い上がる様子を楽しんでいる一コマです。

ご存知の方も多いと思いますが、第一保育所は、園舎360度、もみじの木で囲まれ、この時期は町内一素敵な



紅葉が見られます…と言っても過言ではありません。

紅葉が始まり、赤や黄色、黄緑色…色のグラデーションが素敵な葉っぱを見付けては「せんせい～見て！」「こんな色になっているよ」「きれい」などと感じたことをつぶやく子どもたち！



もみじの葉っぱの大きさや形の違いにも着目し、葉っぱ集めに忙しそうに駆け回り、素敵な葉っぱの花束を作り楽しんでいました。

四季折々の自然を堪能できる環境のもと、子どもたちは身近な自然からたくさんの事を発見したり気付いたりしていました。

これからも五感で感じていけるような保育を大切にしたいと思います。

(保育士 恩田 喜久子)

発表会 もも組も頑張っているよ！



第一保育所では、11月27日(日)の「なかよし発表会」に向けて、あちこちのお部屋から音楽が流れ、楽しく練習に取り組む子どもたちの姿がみられます。

一番小さなクラスのもも組(0歳児)は、普段の保育で行っている手あそびを発表することになりました。

名前を呼ぶと小さな手をあげてお返事をし、

保育者が歌を歌うと身振り、手振りで踊る姿がとても可愛い子どもたちです。

11月より3名の新しいお友だちを迎え、益々賑やかになったもも組。

発表会では、会場の方々に微笑みのプレゼントを予感させる11名のお友だちです。



(保育士 喜多見 珠美)

第二保育所

第43回 おゆうぎ会

10月23日(日)に清水町公民館で第二保育所のおゆうぎ会が行われました。子どもたちは毎日練習を頑張っていました。難しい内容も繰り返し何度も練習に取り組んでいました。

当日は練習の成果を発揮し、子どもたちが一人一人輝くステキなおゆうぎ会となりました！災害後はじめての大きな行事でしたが、保護者の皆様のご協力や温かい応援のおかげで、子どもたちの元気な姿を見ることができてよかったです。最後は「たのしかったー！」とお土産をもらい、嬉しそうな子どもたちでした。

秋の実を楽しみました！

暑かった夏が終わり、第二保育所にも秋が訪れ、園庭にはくり、どんぐり、くるみなどたくさん木の実がなりました。子どもたちは大喜びで、ポケットや袋いっぱい木の実を夢中で集めていました。「りすさんのごはんなんだよね。」「お料理したらおいしくなるんだよね。」と木の実を拾いながら話す様子も見られました。例年より短い秋でしたが、たっぷり秋の実を楽しんでいましたよ。

(保育士 森山遥加)

御影保育所

元気のプレゼント

10月16日(日)、子どもたちが楽しみにしていた第44回発表会が終わり、そのあとまもなく18日(火)に、同じ御影にあるあさひ荘に年中4歳児と年長5歳児がお遊戯を披露しに行きました。

発表会同様に素敵な衣装で着飾り、ウキウキの子どもたち。また、いつもと違う雰囲気にとドキドキしている子どもたちもいました。

踊り始める前に施設長さんからのお話があり、その中に「利用者の方たちに保育所のみさんの元気をください！」というお話がありました。

子どもたちはその後、初めての場所でしたが戸惑うことなくいつも通り元気いっぱいに踊っていました。自信を持って楽しんで踊っている子どもたちの姿に大きな成長を感じました。

また、利用者の方たちも、終始笑顔で観てくださり、「かわいいね」「すごいね」と子どもたちを励ます声を掛けて下さいました。

すべての演目が終わり、利用者さん全員と握手をして「さようなら」の挨拶をしました。

別れ際に、子どもたちからは「楽しかったね」という言葉とかわいい笑顔。

一人の男の子が、「先生、みんなに元気をあげられてよかったね」と言うと、周りの子どもたちも「私も、僕もあげられたよ」と嬉しそうな自信に満ち溢れた声でいっぱいになりました。施設長さんのお話をしっかり聞いていたこと、またこの子たちが素敵な感性を持っていることに感激しました。

保育所の中で学ぶことはたくさんありますが、いつもと違う環境、地域の人たちから学ぶこともたくさんあり、子どもたちにとって良い経験となりました。



秋の自然に触れて

10月になり、毎日少しずつ色を変える木々の葉を見て子どもたちは「きれいだね」と喜んでいました。くるみやまつぼっくり、どんぐりがたくさんグラウンドに落ちているのを見つけて、「見てみて！まつぼっくりあったよー」「すごくおおきいの、みつけた！」とおおはしゃぎ。木の実を使って、ごちそうを作ってみたり、宝探しをしたり、並べて大きさ比べをしたりしてあそんでいました。

ある日、Wくんが友達と植物の図鑑を開き、どんぐりのページをじっくり見ていました。



「Wくんね、どんぐり博士なんだ!」と嬉しそうに教えてくれました。どんぐりやまつぼっくりの形を見て何の木の種類か当てられるのです。クヌギやアカマツなど、大人でも難しい名前を自信を持って教えてくれます。それから、外あそびのとき「Wくん、これ何の木ー?」と子どもたちの間で聞き合っています。Wくんのおかげでクラスのみんなが、秋の自然に興味を持つようになりました。

(保育士 針塚 彩)



みず教育の四季

家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」から
感性あふれ、表情豊かな子を育てる

秋～心を染める色の中で 感性みずみずしく

家庭・地域

今月の取組

学校は、朝の読書で

心を落ち着かせ

家庭は、夕べの読書で

心の安定を!